

# 京都大学附属図書館概要



「弁慶物語(貴重書)」





## 目 次

■ 附属図書館のあゆみ	1
■ 歴代館長	3
■ 図書館機能の概要	4
■ 主要施設・設備の概要	6
■ 平面図	14
■ 附属図書館建物概要	17
■ 附属図書館現況	18
■ 大学位置図	21
■ 附属図書館位置図	21



## 附属図書館のあゆみ

明治30(1897)年 6月	京都帝国大学創立、附属図書館設置「京都帝国大学官制による」(18日)
31(1898)年 7月	最初の建物として煉瓦造2階建の書庫(第1書庫)を建設 笹岡民次郎(初代司書)、図書の受入業務を開始(14日) 「京都帝国大学図書借受仮規則」制定
12月	
32(1899)年 7月	閲覧室および事務室が竣工
11月	初代館長 島文次郎補任
36(1903)年 4月	煉瓦造り3階建の書庫(第2書庫)増築
41(1908)年12月	「附属図書館商議会規程」制定
大正14(1925)年 7月	鉄筋コンクリート造り4階建の書庫(第3書庫)増築
昭和 8(1933)年 9月	法経新館2階に第2閲覧室を開設
9(1934)年 2月	本学の蔵書、100万冊となる
11(1936)年 1月	第1閲覧室焼失
15(1940)年 1月	2代目の図書館の建築に着工
19(1944)年 4月	図書館商議会は戦災に備えて「文献疎開の件」について審議
5月	参考事務のため、文献調査掛を置く
6月	図書の第1次疎開
21(1946)年 5月	連合軍最高司令部の覚書によって戦時宣伝用刊行物が没収される
22(1947)年 9月	政令 第204号をもって帝国大学等に関する勅令の1部が改正、京都帝国大学が京都大学と改称される。これに伴って蔵書印も改刻
23(1948)年 3月	閲覧室及び事務室、新館(2代目建物)に移る
11月	参考掛、正式に設置
31(1956)年 7月	文献複写業務発足
32(1957)年12月	地磁気世界資料室設置(52(1977)年4月理学部へ移設)
33(1958)年 1月	文献複写サービス開始(「文献複写会」結成)
34(1959)年 2月	本学の蔵書、200万冊となる
6月	アメリカ研究センター図書室開設
12月	附属図書館創立60周年記念式典挙行
36(1961)年 4月	事務部が部課制となる(整理課、閲覧課)
38(1963)年12月	開架閲覧室開設(大閲覧室の中に開架書架を設置)
39(1964)年 9月	附属図書館報『静脩』を創刊
40(1965)年 6月	HRAF資料配布館となり、HRAF資料室開設「HRAF利用内規」を制定
41(1966)年 4月	電子複写方式による文献複写業務を開始
43(1968)年 7月	改装(1階に第2閲覧室と雑誌室を開設)
44(1969)年10月	OECDの寄託図書館に指定(49(1974)年12月解除)
46(1971)年 3月	本学蔵書、300万冊となる
49(1974)年 4月	事務部に総務課が置かれる
12月	図書館増改築について検討開始(商議会の下に「運営改善に関する委員会」を設置)
53(1968)年10月	開館時間を午後8時まで延長
54(1979)年12月	附属図書館創立80周年式典を挙行
55(1980)年 4月	閲覧課に学術情報掛を新設 開館時間を午後9時まで延長
55(1980)年10月	全面建替えが関係当局によって認められる
56(1981)年 1月	商議会は「京都大学附属図書館新営計画」を決定
9月	図書館現地建替えのため、仮移転(法学部、理学部ほか)

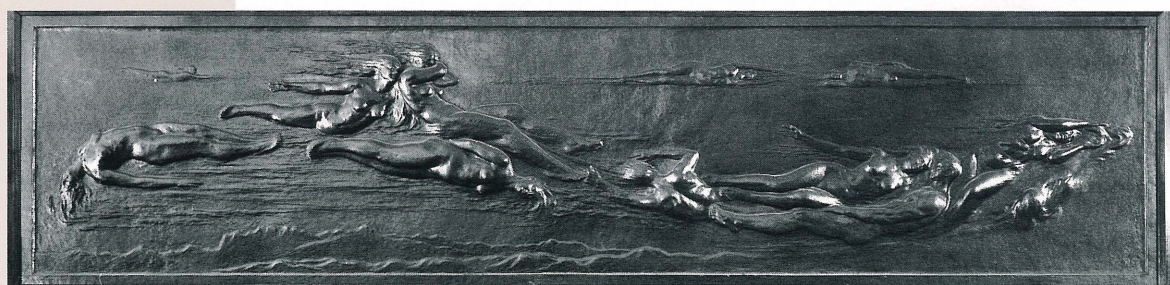
## 附属図書館のあゆみ

昭和56(1981)年12月	新営工事を開始 本学蔵書、400万冊となる
58(1983)年 1月	分類表を変更(和書・洋書とも国立国会図書館分類表を採用)
4月	閲覧課に相互協力掛を新設
10月	新館(3代目建物)竣工(20日)
59(1984)年 4月	開館(9日) 開架図書の出し入れ業務を電算化
6月	「京都大学附属図書館利用規程」および「同施行細則」制定
60(1985)年 7月	東京大学文献情報センター(後の学術情報センター)とDDXパケット交換網により接続を完了
11月	オンライン情報検索サービスの開始 「京都大学文献複写相互利用制度事務取扱要領」制定(館長裁定)
61(1986)年 2月	「京都大学附属図書館報『静脩』発行要項」制定(館長裁定)
4月	AVブースの利用開始
62(1987)年 3月	「京都大学附属図書館所蔵図書館資料複製物の外部機関における利用内規」制定(館長裁定) 「京都大学附属図書館学外者利用内規」制定(館長裁定)
6月	外国雑誌センター(理工学系)に指定される
9月	遡及入力調査研究室を設置
63(1988)年 3月	「京都大学附属図書館貴重書指定基準」制定(館長裁定)
4月	事務部の「課」名変更(整理課→情報管理課、閲覧課→情報サービス課)(文部省訓令)
9月	オンライン目録検索(OPAC)を開始
平成元(1989)年 4月	事務部の「掛」名変更(受入掛→図書受入掛、和漢書目録掛→和書目録情報掛、洋書目録掛→洋書目録情報掛、学術情報掛→システム管理掛、閲覧掛→資料運用掛、学術資料掛→雑誌・特殊資料掛、相互協力掛→相互利用掛)



# 歴代館長

氏名	就任	退任
島 文次郎	明治32.11. 6	明治43. 7.25
石 川 一	43. 7.25	44.10. 1
新 村 出	44.10. 1	昭和11.10.19
羽 田 亨	昭和11.10.19	13.11.25
本 庄 栄治郎	14. 1.17	17. 7.28
沢 瀉 久 孝	17. 9. 1	22. 5.31
原 随 園	22. 5.31	24.11. 8
泉 井 久之助	24.11. 8	32. 7.15
田 中 周 友	32. 7.15	38. 7.14
足 利 惇 氏(事務取扱)	38. 7.15	38. 7.25
堀 江 保 蔵	38. 7.25	41. 7.24
宍 戸 圭 一	41. 7.25	46. 3.31
平 岡 武 夫	46. 4. 1	48. 3.31
林 良 平	48. 4. 1	57. 3.31
高 村 仁 一	57. 4. 1	59. 3.31
西 原 宏	59. 4. 1	61. 3.31
西 田 龍 雄	61. 4. 1	



「雲」 斎藤 素巖作



# 図書館機能の概要

昭和58（1983）年10月、京都大学に待望の新しい図書館が完成し、翌59（1984）年4月9日全面開館した。

新館建設によって、各種の施設・設備が飛躍的に拡充・整備された結果、活発な図書館活動ができるようになった。

## 図書館資料

附属図書館は、学術情報および文献資料の提供を通じて、利用者の学習・調査・研究活動を支援することを任務としている。したがって、あらゆる分野の利用者のために、図書、雑誌その他の資料の充実をはかり、利用者の多様な要求に応えることが基本的な使命である。

### 学習図書

人文・社会・自然科学の全分野にわたる新刊書を中心とした基本図書並びに教養図書の収書に努め、質・量ともに充実した学習図書館として機能の充実をはかっている。

また、特色のある集書に努める一方、調和のとれた蔵書構成を目指し、その利用実態を把握し、これを選書にフィードバックする。

### 研究資料

調査・研究活動の支援を重視し、参考図書スペース、雑誌閲覧スペース、特殊資料室の整備をはじめ、「京都大学バックナンバーセンター」を設置するなど、研究資料を全学的な利用に供するための施策を進めている。

#### ■参考調査用コレクション

図書館の重要な機能の一つに、書誌情報、所在情報等を提供する参考調査機能がある。

近年における書誌・目録・抄録・索引など二次資料等の高額化によって、部局図書館（室）では、その収集、維持が困難になっている状況にあるため、Chemical Abstracts Collective Indexや国際連合、国際機関、主要国統計資料など高額な参考図書についても、附属図書館で体系的継続的に収集し、広く研究者の利用に供している。

#### ■学術雑誌

雑誌閲覧スペースには、新着雑誌を中心にこれまで附属図書館が受入れてきた内外の学術雑誌のほか、工学部の協力を得て化学系6教室購入の雑誌等約300タイトルを配架している。

バックナンバーは、地下書庫に収納し、広く学内外の研究者の利用に供している。

#### ■理工学系外国雑誌

昭和62年度から、附属図書館は理工学分野における全国の外国雑誌センターに指定され、関係機関との連絡調整をしつつ、雑誌の選定・収集を行い、全国的な利用に供している。

#### ■視聴覚資料の整備

教養部で開講している外国語（英・独・仏・露・中）及び日本語の学習ができるようにカセットテープ（音声のみ）とビデオテープを整備し、利用に供している。

## 図書館の利用

図書館の運営上重要なことは、利用者が使い易く、しかも自由な雰囲気、漂う思索の場となる環境を作り、利用を促進するための方策を講ずることである。

### 入退館の方式

教職員・学生等利用者に図書館利用証の交付とブックディテクション・システムの採用により、カバンや荷物の持ち込み、冬季のコート着用等入退館を簡易している。

### 自由接架方式

開架閲覧室、参考図書スペース、雑誌閲覧スペースでは、書架と閲覧席を隣接させ、利用者が自由に書架に接し、探し出した図書をその場で読むことができる自由接架方式とした。そこでの閲覧冊数の制限はない。

### サービスポイントの集中

メインカウンターにサービスポイントを集中し、図書の貸出、返却、参考調査、文献複写の依頼、情



報検索、テレックスの利用等、利用者と図書館を結び付ける重要な接点としている。

## 開架図書

自由接架方式の利点をより多く発揮するため、開架冊数の増強を図っている。新刊書を中心に、人文・社会・自然科学などすべての分野にわたる学習・研究用の基本図書、教養図書および外国の学術図書も配架している。

## 学内所蔵図書の検索

1階総合目録室には、本学創立以来の全学の総合目録として、和漢書・洋書約500万枚のカード目録が備えられている。これらは、メインカウンター前に設置された端末機による“近畿北部地区総合目録”の所蔵データと相互補完的に使う必要がある。

また、附属図書館の貴重品、特殊文庫および本学で授与された博士学位論文の目録も整備している。

## 書庫内図書の検索

開架閲覧室、参考図書スペース、雑誌閲覧スペース等での自由閲覧に加えて、附属図書館蔵書の大部分を収容する書庫内の図書についても、入庫検索できる利用者の範囲を広げ、事実上、自由接架方式に等しく図書の検索ができるようになっている。

## 貸出・返却処理の迅速・簡易化

開架図書の著しい増加により、利用者が増大し、これに伴い、閲覧・貸出件数は大きく増加した。これに対応するため開館時（昭和59年4月）から貸出業務の電算化を実施している。

## 情報入手・提供機能

学術情報システム計画が進むなかで、附属図書館は学内における図書・雑誌の情報センターとしての役割はいうまでもなく、全国的な学術情報ネットワークにおける地区センター館（近畿北部地区（滋賀・京都・奈良）国立大学各附属図書館の図書・雑誌に関する情報処理センター）としての役割をも担っている。

## 情報処理センター機能

附属図書館は、学内及び地区のセンターとしての機能を果たすため、この地区の国立大学各図書館では、本学のホストコンピュータを使い、学術情報センターに所蔵情報を登録している。

また、ハウスキーピング業務も同機で処理している。

## 地域総合目録のオンライン検索

学術情報センターに登録されたデータと同じものが、図書館のホストコンピュータにも蓄えられ、それと接続した端末機で、目録情報が検索できる。

## 研究情報の提供サービス

学生・研究者の要求に応えるため、単に文献複写サービスにとどまらず、図書館間相互協力態勢の充実をはかり、国内は勿論のこと、諸外国の主要図書館に所蔵されている資料の調査、入手をも積極的に行っている。

## 保存機能

地下1階に積層書庫および特別に設計された貴重書庫、地下2階には電動式集密書庫を設置して保存機能にも重点をおいた図書館作りを行っている。

## バックナンバーセンター

書庫スペースは、全体で約105万冊をこえる収蔵が可能である。このうち約26万冊分のスペースは、全学的な雑誌のバックナンバーセンターとし、研究図書館機能の充実を期し、現在、約6900タイトルを収蔵し、利用に供している。

## 貴重図書の保管

恒温・恒湿、防火の設備を完備した貴重書庫は、全学的見地にたった貴重図書の保存・管理計画のもとに、附属図書館が所蔵する貴重図書のほか、部局の要請に応じて、種々の貴重図書を保管する。



# 主要施設・設備の概要

1F



## ◀ 玄関

建物正面に間口約13.5mの玄関ポーチを設け、床は外装と同じレンガタイル張りとし、前面の道路から歩いて約30歩で、自動ドアを取りつけた風除室(20㎡)を経て、メインフロアに導く。この道程は、図書館の雰囲気作りに大切なものとする。また、玄関に入る手前左側にベンチを設け、学生諸君の語らいの場としている。

## ▶ エントランス・ホール

エントランス・ホール(133㎡)には、2階までの「吹抜け」がある。これにより、館内に入ったとき、天井からの圧迫感を受けることなく、広く明るい感じを受けること、「吹抜け」から2階の開架閲覧室の空間的な一体感を生み出す心理的効果がある。



## ◀ 入退館システム

エントランス・ホールと出納ホールとの境界に、入口2通路、出口2通路のゲートを設けている。通常、入館ゲートはロックされており、図書館利用証を挿入し、バーを押して入る。1～3階の利用部門は自由に利用することができる。

退館ゲートは入館ゲートとは逆に、通常はロックされていないが、貸出手続きの済んでいない図書を帯出した場合、バーがロックされ、ブザーが鳴る仕組みとなっている。





### ◀出納ホール

出納ホール（153m<sup>2</sup>）には、図書館利用者のすべての窓口であるメインカウンターを設けている。

メインカウンターには、①本館の利用をはじめ、全学の図書館（室）に関する質問などを受付けるインフォメーションデスク、②図書の貸出・返却・貸出予約などを端末機によって処理するデスク、③入庫検索、共同研究室、研究個室の利用申し込みを受付けるデスク、④文献複写、相互利用に関する申し込みを受付けるデスク、⑤あらゆる参考調査業務を受持つレファレンスデスクがある。

### ▶参考図書スペース

参考図書スペース（378m<sup>2</sup>）には、全学的に利用される辞書・事典・索引・書誌の類および二次資料など各種参考図書約2万冊を配架し、90の閲覧席を設けている。



### ▶▶地域総合目録オンライン検索用端末スペース

近畿北部地区大学が所蔵している図書の目録所在情報をホストコンピュータに蓄積し、それぞれの大学の端末から必要とする図書の所在情報が検索できる。端末2台を利用者用として設置している。

附属図書館においても所蔵図書の目録情報を入力している。





## 主要施設・設備の概要



### ◀新聞ラウンジ

新聞ラウンジ（50㎡）には、12種の国内外の代表的な新聞を備え、20の閲覧席（ソファー）をおいている。

### カード目録室

カード目録室（244㎡）には、本学創立以来の蔵書の目録を備えている。

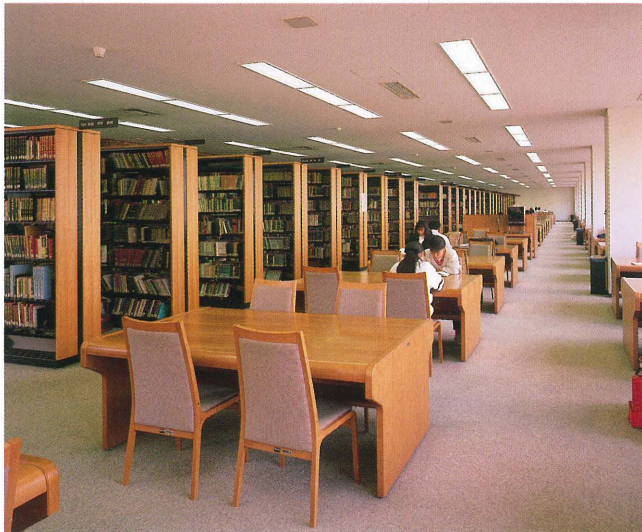


### ◀雑誌閲覧スペース

雑誌閲覧スペース（359㎡）には、25の閲覧席がある。ここには、理工学系外国雑誌センター雑誌のほか、附属図書館で従来から受入れている学術雑誌および化学系の雑誌等約300誌も集中配架している。



## 2F



### ◀開架閲覧室

開架閲覧室（1,685㎡）には、約7万冊を配架している。

この開架閲覧室は、ワンフロア全体を間仕切りや段差を作らず、開放的な雰囲気を念頭において計画された。また、利用度も高いエリアであるので、照明の方法、書架配置、閲覧席の種類と配置について特に配慮を行っている。調度は静かな、読書と思索の場にふさわしい雰囲気をもつよう、木製品を主体に心休まる読書環境作りを気配っている。また、閲覧席は、自然環境を考慮して窓際に設け、書架は、その内側に配置している。

### ロビーラウンジ ▶

エトランス・ホールから階段を上ったところに、ロビーラウンジを設け、ソファー32人分を配置して、文庫本、教養・趣味的雑誌などをくつろいで閲覧できるようにしている。



### ◀タイプ室

防音装置を施したタイプ室では、利用者が自由につかえるタイプライターを備えている。



## 3F



### 共同研究室

附属図書館の所蔵資料を使用するグループスタディなどのため、20名規模の共同研究室（56㎡）を2室設けている。

### ◀研究個室

附属図書館の所蔵資料を使つての研究や論文作成等のため、大学院生以上の研究者の利用に供する研究個室13室（12㎡2室、7㎡4室、6㎡7室）を設けている。



### ▼特殊資料室

特殊資料室（439㎡）では、HRAF（Human Relations Area Files）資料、マイクロ資料、AV用語学テープおよびマイクロ資料の閲覧・プリントのためのリーダープリンターを配置している。また、貴重書閲覧室も設けている。







### ◀AVホール

AVホール（206㎡、映写準備室33㎡）は118の座席を有し、視聴覚資料を用いた講演会、講習会などに使用される。準備室には、フィルム、ビデオテープ、録音テープ、レコードなど各種視聴覚資料の再生機器・設備を導入している。

### ▶展示ホール

本学が所蔵する貴重図書、その他特色ある蔵書等を展示するためのホール（188㎡）を設けている。

また、学外の公的機関などと共催するものにも使用することがある。



### ◀AVブース

AVブース（68㎡）では、語学テープ（音声テープ、ビデオテープ）を個人で視聴する機器を備えたブース18席を設けている。



### ▶教官談話室

図書館を利用する教官の小会合、談話あるいは専門分野の異なる教官相互のコミュニケーションの場として、教官談話室を設けている。



### 4F



#### ◀コンピュータ関係各室

図書館情報処理センターとしての機能を果たすため、コンピュータ機器室（120㎡）、オペレータ室（48㎡）およびコンピュータ事務室（55㎡）3室を設置している。

昭和59年4月には、FACOM V-830による貸出し関係業務を開始し、60年4月からは教養部の貸出し業務も処理している。

また、昭和60年1月には専用のコンピュータ（FACOM M-340）を導入し、学術情報システム構想に基づいた学内および地区の図書館にオンラインサービスを行っている。

#### 地域共同利用室

地区センター館としての役割を果たすため、地域共同利用室（117㎡）を設けている。ここでは地域の図書館とのコンピュータ・ネットワーク形成に関する打ち合わせや、講習会等が行われている。



#### ◀大会議室

図書館の運営に関する会議をはじめ各種の会議に使用している。

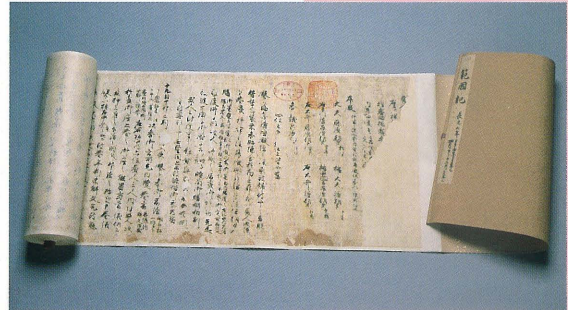


#### 調査室

学内の教官に委嘱して、特定テーマに関する調査・研究を行うため、調査室（126㎡）を設けている。



地下1F



▲貴重書庫

重要文化財（39種170冊）を含む貴重書、稀覯本など収容力約5万冊の貴重書庫（293㎡）がある。専用の空調設備で常に温度や湿度を一定に保つとともに、天井、壁面、床をすべて板張りにしている。特に壁は、板を固定させない落とし込み構造とし、結露を防ぐ仕組みを施して、湿度の変化に柔軟に応じる「校倉造り」になったものとなっている。また、防虫、防火にも万全を期している。

書庫

積層式の書庫（1,412㎡）では、内外の雑誌・新聞原紙のほか、京都大学で授与した博士学位申請論文を収蔵している。学内研究者が簡単な手続きで開架図書と同じように、直接検索できる。なお、将来、この書庫を2層にする計画である。



地下2F



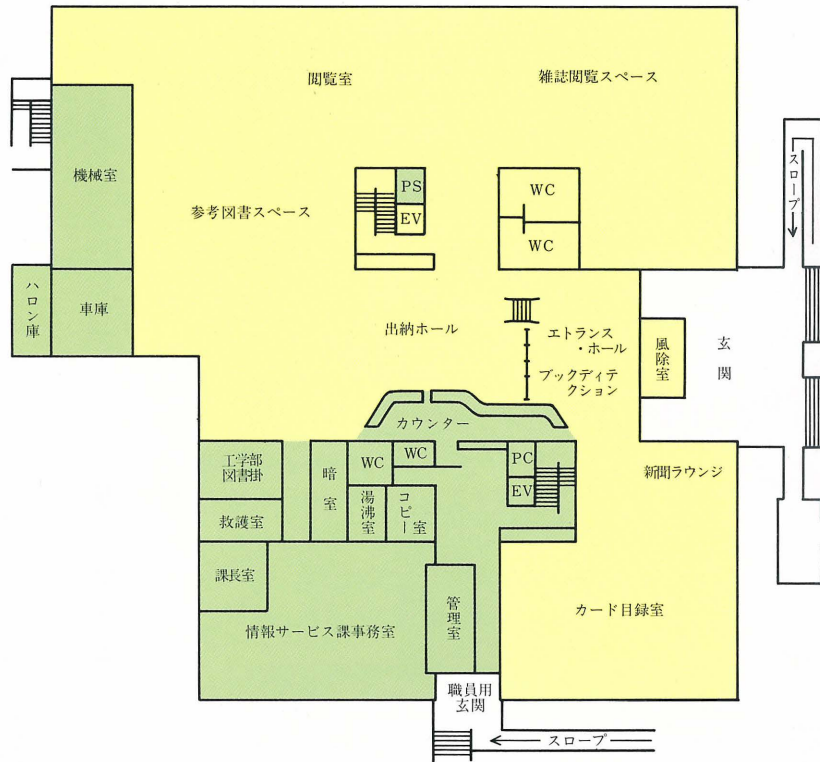
◀集密書庫

地下2階の書庫（2,007㎡）は、すべて電動式集密書架を配置し、約75万冊の収容を可能にしている。うち26万冊は「京都大学バックナンバーセンター」に充当し、49万冊は和洋図書の収蔵にあてている。

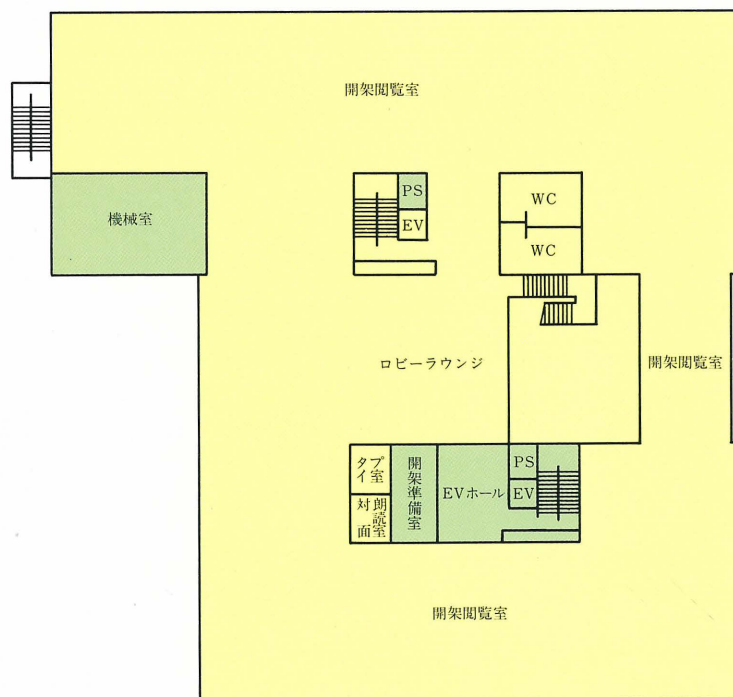


# 平面図

1F

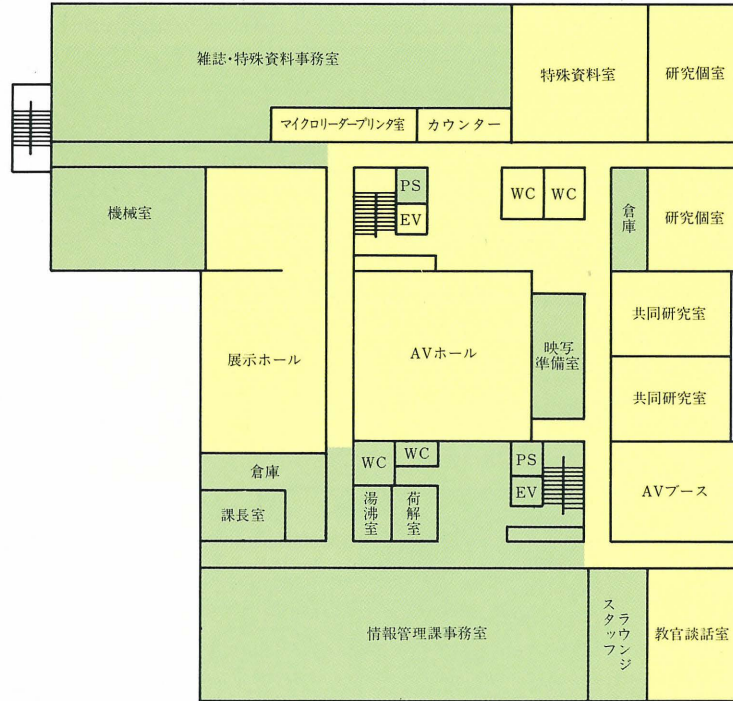


2F





3F

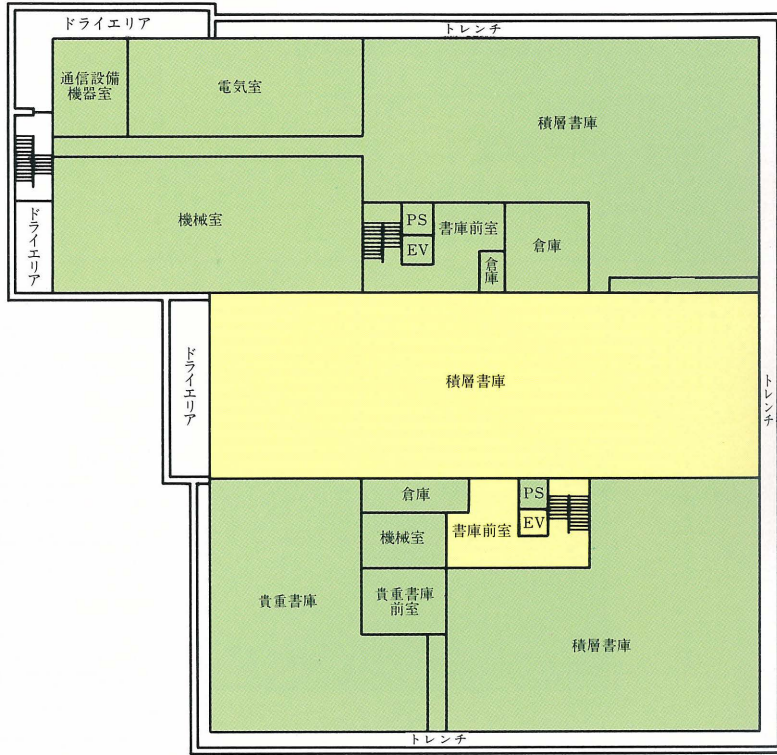


4F





地下1F



地下2F





# 附属図書館建物概要

## 構造

鉄骨鉄筋コンクリート造り (SRC)

地上4階 地下2階 塔屋1階

## 面積

建 2,477.86㎡

延 14,011.25㎡

## 各階床面積と主な施設内容

地下2階	2,353.21㎡	集密書庫
地下1階	2,353.21㎡	貴重書庫、積層書庫
地上1階	2,319.29㎡	玄関、エントランスホール、カウンター、新聞ラウンジ、カード目録室、検索用端末コーナー、参考図書スペース、雑誌閲覧スペース、救護室、暗室、情報サービス課事務室、管理室
地上2階	2,168.70㎡	開架閲覧室、タイプ室、ロビーラウンジ、対面朗読室
地上3階	2,297.98㎡	展示ホール、AVホール、映写室、AVブース、特殊資料室、貴重書閲覧室、研究個室、共同研究室、教官談話室、情報管理課事務室
地上4階	2,262.09㎡	大会議室、小会議室、研修室、地域共同利用室、調査室、応接室、コンピュータ機器室、オペレーター室、遡及入力調査研究室、館長室、部長室、総務課事務室、印刷室、職員休憩室、更衣室
塔屋階	256.77㎡	エレベーター機械室、空調機械室

## 設計

京都大学施設部、株式会社富家建築事務所、株式会社末松設備総合コンサルタント

## 管理

京都大学施設部

## 工期

着工/昭和56年12月26日 竣工/昭和58年10月20日

## 総工費

2,677,500千円 (建築 2,030,550千円 設備 646,950千円)



# 附属図書館現況

## ■開館時間

平 日	午前9時～午後9時まで
土 曜 日	午前9時～午後5時まで
1月6日～1月10日まで 7月21日～8月4日まで 8月16日～9月10日まで	午前9時から 午後5時まで

## ■サービス時間

サービスの種類	月曜日～金曜日	土曜日
タイプライター室	9:00～21:00	9:00～17:00
マイクロリーダープリンター	9:00～11:45, 13:00～16:45	9:00～11:45
テレックス	9:00～11:30, 13:00～16:30	9:00～11:30
文献複写	9:00～12:00, 13:00～17:00	9:00～12:00
研究個室	9:00～16:45	9:00～11:45
共同研究室	9:00～16:45	9:00～11:45
A V ブ ー ス		
利用時間	9:00～16:45	9:00～11:45
受付時間	9:00～11:45, 13:00～16:30	9:00～11:30

## ■休館日

- ・日曜日
- ・国民の祝日等（国民の祝日等が日曜日にあたる場合は、その翌日）
- ・本学創立記念日（6月18日）
- ・図書整備等、業務上の都合による休館日
  - 4月1日～4月5日まで
  - 8月5日～8月15日まで
  - 12月25日～翌年1月5日まで
  - 毎月末日（末日が日曜日にあたる場合は、その翌日）
- 以上のほか、必要に応じ、臨時に休館することがあります。

## ■利用資格

- ・本学の名誉教授
- ・本学の教職員
- ・本学の学生
- ・その他館長が特に認めた者

## ■学外者の利用

- ・利用に際しては、次のいずれかの書類が必要です。
  - 本学の卒業生……………卒業証明書
  - 本学の元職員……………在職証明書またはそれに代わるもの
  - 教育・研究機関の所属者…当該所属機関の紹介状および身分を証明するもの
  - 国立大学の教官及び大学院学生…国立大学図書館間「共通利用証」
  - 近畿地区公立大学の教員及び大学院学生…公立大学協会図書館協議会「公立大学間共通閲覧証」
  - その他……………本学教官の紹介状および身分を証明するもの
- ・利用は、原則として閲覧と文献複写に限ります。
- ・3ヵ月以上の長期にわたって利用を希望される本学の卒業生、元職員等は、利用証の交付を申請することができます。



■貸出期間と冊数

	名誉教授	職 員		学 生		その他、館長が特に許可したもの
		教 官	その他の職員	大学院学生	学部学生	
開架図書	2 週 間 以 内					別に定める
	5 冊 以 内					
庫内図書等	1 カ 月 以 内			2 週間以内		別に定める
	10冊以内	30冊以内	10 冊 以 内		5 冊 以 内	
雑 誌	2 日 以 内					別に定める

(学生は、春・夏・冬の各休業期間中に限り、休業期間終了後、1週間まで返却を猶予されます。)

■主な利用対象者数 (元.5.1)

学 部 学 生	大学院学生	教 職 員	合 計
13,053名	3,969名	5,461名	22,483名

■年間総入館者数 (昭和63年度)

学 内 者	学 外 者	合 計
587,453名	1,407名	588,860名

■蔵 書 数 (元.4.1)

和 書	洋 書	合 計
2,489,169冊 (453,479冊)	2,274,967冊 (237,306冊)	4,764,136冊 (690,785冊)

( ) 内は、附属図書館

■雑誌所蔵種類数 (63.5.1)

和 雑 誌	洋 雑 誌	合 計
28,117種 (7,107種)	30,150種 (8,706種)	58,267種 (15,813種)

( ) 内は、附属図書館

■年間増加冊数 (昭和63年度)

和 書	洋 書	合 計
44,872冊 (6,223冊)	48,315冊 (2,198冊)	93,187冊 (8,421冊)

( ) 内は、附属図書館

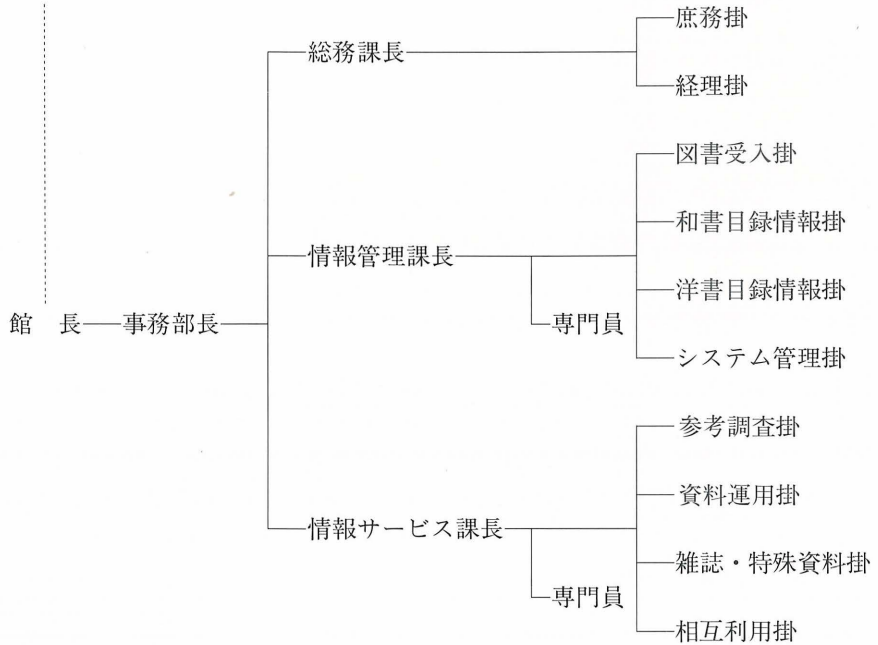


■重要文化財一覧 (39種 170冊)

- 紙本墨書 万葉集 卷16 (尼崎本) 1帖 平安末鎌倉初期筆写
- 紙本墨書 古今集注 20巻 2帖 藤原教長撰 仁治2 (1241)年 伝二条師忠筆
- 清原家家学書 紙本墨書 34種
- 紙本墨書 兵範記 49巻 兵部卿平信範 長承元(1133)年~承安元(1171)年
- 範国記 1巻 平 範国 長元9 (1036)年 夏秋冬記
- 知信記 1巻 平 知信 天承2 (1132)年 正月~3月

■組織機構

商議会——選書分担商議員会議



■職員数 (元.5.1)

68名 (非常勤職員を含む。)

■経常費 (昭和63年度)

図書購入費	図書館維持費	総計
105,603千円	122,032千円	227,635千円

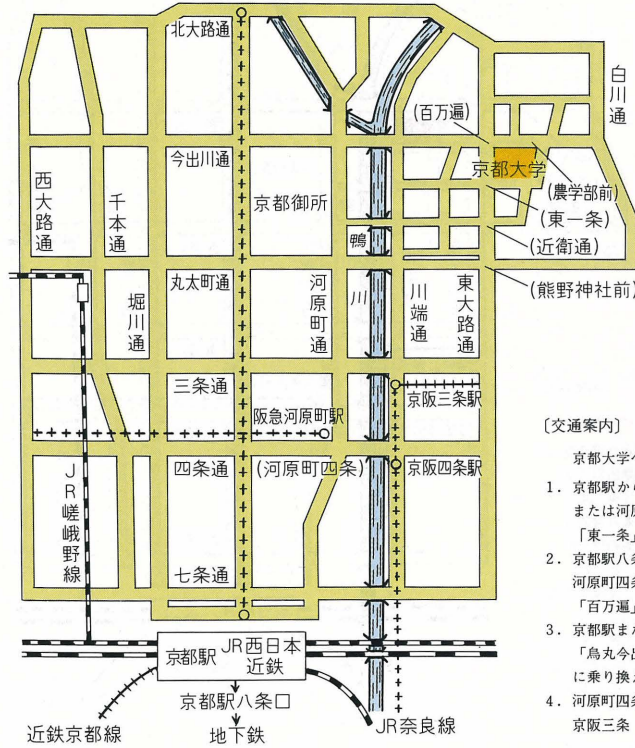
■定期刊行物

京都大学附属図書館報『静脩』1年4回発行



# 大学位置図

京都市内略図

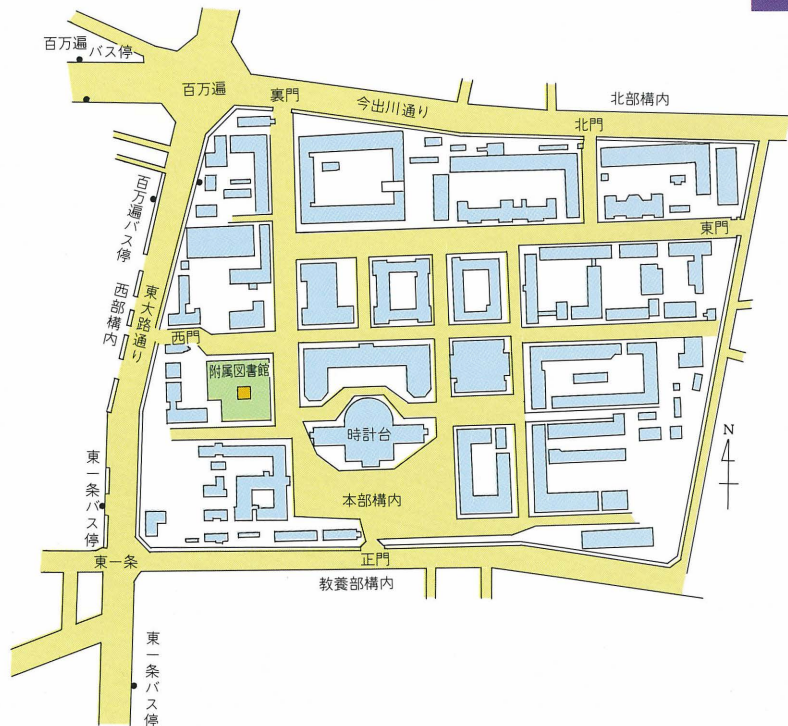


〔交通案内〕

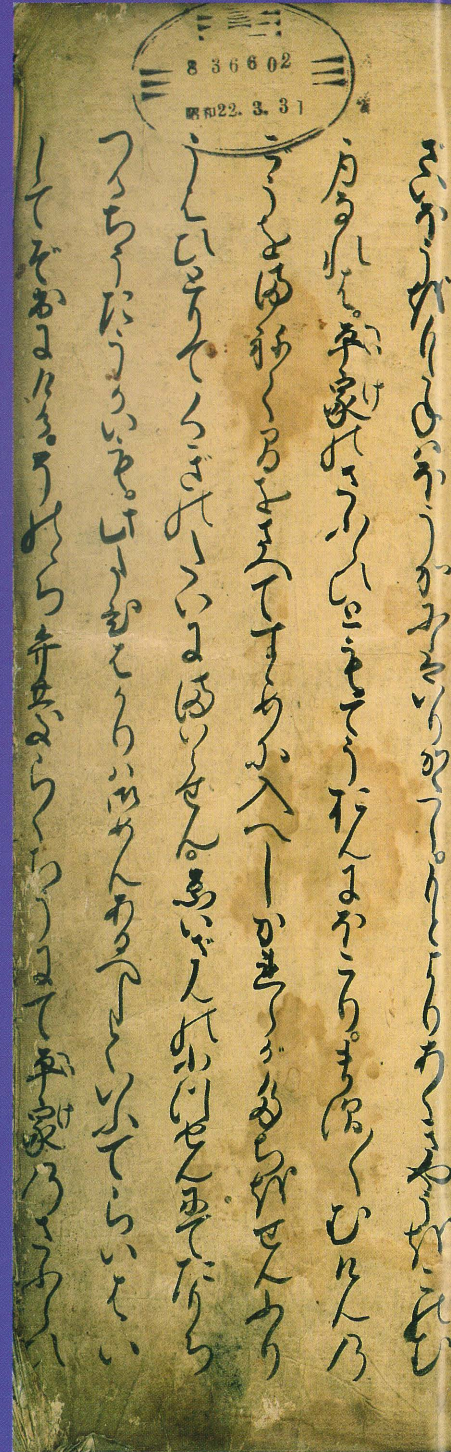
京都大学への経路(市バス)

1. 京都駅から206(東山通・高野・北大路駅行) または河原町四条から201(百万遍行) 「東一条」下車(本部、西部、教養部構内)
2. 京都駅八条口 } から17(河原町通・錦林車庫行) 河原町四条 } 「百万遍」下車(本部構内)
3. 京都駅または四条烏丸から地下鉄(北大路行) 「烏丸今出川」下車、市バス201または203 に乗り換え、「百万遍」下車(本部構内)
4. 河原町四条 } から11(河原町通・三条京阪・東山通・銀閣寺道・ 京阪三条 } 錦林車庫行) 東一条下車(本部構内)

# 附属図書館位置図







## 京都大学附属図書館

〒606 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-2613

FAX 075-753-2629